

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用 ・厚生労働省 ・国土交通省 ・俳官公通信社 ・高齢者住宅新聞社 ・福祉新聞 ・日本経済新聞 他

平成31年1月号

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246

関市緑ヶ丘2-5-78

TEL : 0120-337-301

FAX : 0575-24-5733

獣害対策が障害者の仕事に イノシシ皮製品の製造も



地域課題の解決と障害者の工賃増をどちらも目指そうと、獣害対策に取り組む社会福祉法人が出てきている。広島県福山市の共働福祉会はイノシシ被害対策プロジェクトを開始した。岡山市の金曜会は、イノシシ皮を使った商品を製造・販売している。

広島の共働福祉会が獣害対策に取り組むきっかけは、2016年、障害者多機能事業所「久松共働センター」の敷地内にイノシシが出没し、野菜を食い荒らしたり、駐車場で職員が身の危険を感じたりしたことだった。

行政に相談しても対策は取ってくれず、猟友会がないため捕獲も頼めない。自分たちで何とかするしかないと考え、ホームセンターで買ってきた防護柵を50メートルにわたり設置。

被害を食い止めた同会は、県内で農作物の獣害が4億円もあり、その7割がイノシシ被害であること、福山市で獣害が10年前の200倍に増えていること、家庭菜園を諦める高齢者が多いことなどを知り、地域貢献で獣害対策に取り組むことを決意。

就労継続支援B型事業で柵の設置、助成金申請の代行、各種情報提供などを行うプロジェクトを立ち上げた。

設置にかかる費用は柵1枚分が1000円（人件費込み）。市の助成金を使うことで100メートルの柵を5万円程度で設置できる。

アドバイザーは「知的障害があっても柵の設置は十分できる」と太鼓判。戸田理事長は「目指すは福山市内の獣害ゼロ。地域貢献を第一に考えた取り組みで、活動を通じて地域との協力、信頼関係を築いていきたい」と話す。

岡山の金曜会はイノシシの皮を使った名刺入れやペンケース、巾着などの製造を始めた。

きっかけは、岡山県が獣害対策と障害者の工賃増という課題解決を目指すモデル事業で、イノシシ皮製品の開発・製造を行う

「KIBINO」プロジェクトを立ち上げ、県セルプセンターから縫製作業に実績のある同会に打診があったことだ。

同会は2法人と一緒にプロジェクトに参加。現在は生活介護事業所で年間10頭分のイノシシ皮製品を作っている。

染色されたなめし革を仕入れレーザー彫刻機で切断、針穴を開け、利用者が縫い上げる。今はまだ工賃増にまで結びついていないが、今後に期待している。

獣害は各地で増えており、山間部にある法人にとっては、他人ごとではない。就労事業をされている法人・仕事内容に困っている法人は、地域課題の解決と工賃UPを目指し、獣害対策を視野に入れてみてはいかがだろうか。